

里帰り！西別府廃寺採取「古瓦」展

～地元住民がかつて採取し保管していた貴重な資料～



会期：令和5年5月10日（水）～9月29日（金）

会場：熊谷市立江南文化財センターホール

1 はじめに

この度、長らく他所に預けられていた西別府廃寺所用の瓦等の資料が、熊谷市立江南文化財センターに返還されました。この資料は、西別府廃寺が所在した場所が、木々が鬱蒼と茂る林であったときに、近くの住民が採取し、自宅に保管していたものです。

この林では、他にも地元の人々によって瓦や信仰の対象として作り用いたミニチュアの塔である瓦塔が採取され、古代寺院の存在を証明する貴重な資料であるとして、昭和30年11月、計12点が市有形文化財・考古資料「古瓦」として指定され、西別府の安楽寺に保管されていました。現在は、その資料を江南文化財センターがお預かりしています。

瓦が採取されたこの場所は、以前から古瓦が多数散布していたことから、寺院ないしは瓦を焼いた窯跡ではないかと考えられていました。その後、平成2年、4年になって、開発に伴い発掘調査が行われ、古代寺院の内容について明らかになってきました。この寺院が西別府廃寺であり、当時この地にあった古代の幡羅郡家（郡役所）に付属する寺院として考えられています。

返還された資料は、西別府廃寺の寺院建物の屋根に葺かれていたと考えられる軒丸瓦、軒平瓦、平瓦のほか、瓦塔が含まれ、計7点です。また、この度は、返還資料とともに、参考として発掘調査により出土した資料や市指定文化財「古瓦」の資料も併せて展示しています。

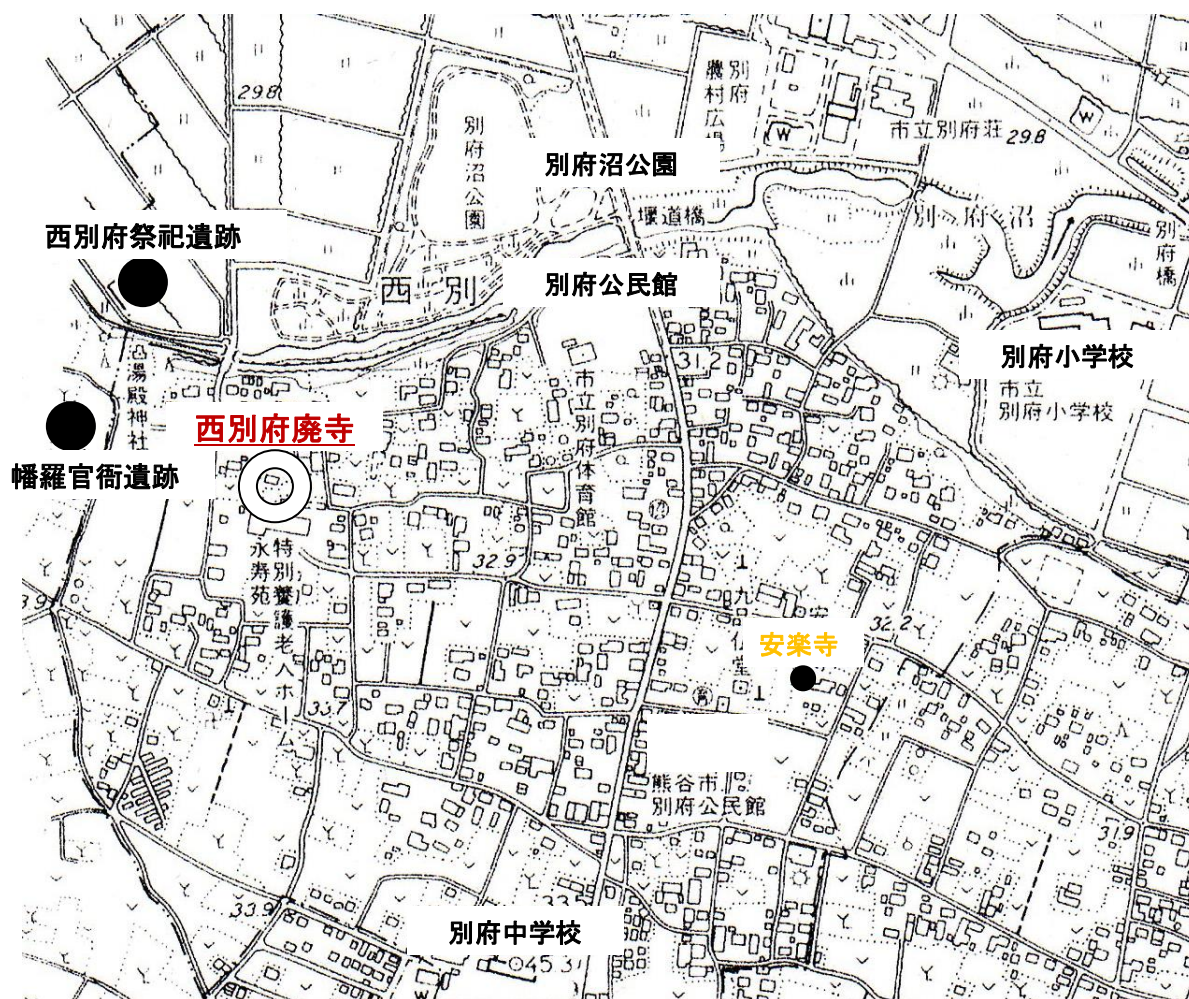
2 西別府廃寺について

西別府廃寺は、市西部の櫛挽台地のほぼ平坦な地形に造られた寺院跡です。周辺には、飛鳥時代～平安時代にあった幡羅郡家跡の幡羅官衙遺跡、台地の縁辺崖線下の湧泉に対する祭祀を行った跡の西別府祭祀遺跡などがあります。いずれの遺跡も互いに有機的な関係にあり、古代幡羅郡家にとって一つとして欠くことのできないものであったと考えられます。また、このように役所・寺院・祭祀の3要素が揃う場所は全国的にも珍しく、岐阜県関市弥勒寺官衙遺跡群に次いで2例目の発見例です。ちなみに、幡羅官衙遺跡及び西別府祭祀遺跡は、「幡羅官衙遺跡群」の名称で、平成30年2月13日付けで国史跡に指定されています。

西別府廃寺は、発掘調査により一部ではありますが寺院の実態が判っています。それは、寺院の主要施設である伽藍^{がらん}の建物基礎と考えられる基壇跡^{きだん}、その伽藍を区画すると考えられる溝跡、寺院のエリア（寺域）全体を区画する大溝跡、寺院の補修や日常活動に関わりがあると考えられる竪穴建物跡などです。

また、屋根に葺かれ、その軒先を飾っていた軒丸瓦・軒平瓦等の多数の瓦のほか、寺院の存在を証明する墨書土器「寺」・「寺工宋」・「院」、寺院における宗教活動の実態を表す墨書土器「浄」・「明」、瓦塔・瓦堂などが出土しています。

西別府廃寺は、出土した瓦などから奈良時代の初め（8世紀初頭）に創建され、8世紀前半に本格的に伽藍の建物が整備され、補修などをしながら平安時代の10世紀後半まであったとされる寺院です。また、この寺院は、幡羅郡家のすぐ東側に占地していて、幡羅郡家の政治を行っていた郡司^{ぐんじ}と呼ばれる役人が大に関わっていたと考えられます。



第1図 展示関連遺跡等位置図

3 返還資料について

返還された資料の内訳は、軒丸瓦4点、軒平瓦1点、軒平瓦または平瓦1点、瓦塔1点です。軒丸瓦には、単弁12葉蓮華文軒丸瓦、単弁9葉蓮華文軒丸瓦、単弁8葉蓮華文軒丸瓦、鏤状蓮弁6葉軒丸瓦が各々1点含まれ、特に注目されるのが鏤状蓮弁6葉軒丸瓦です。この瓦は、発掘調査では出土しておらず、また現在唯一の資料であり、貴重なものです。軒平瓦は三重弧文軒平瓦、瓦塔は屋根の部位（屋蓋部）の資料です。

軒丸瓦は、最も古いものが単弁12葉蓮華文軒丸瓦で8世紀第2四半期（726～750年）、次に単弁9葉蓮華文軒丸瓦及び単弁8葉蓮華文軒丸瓦で8世紀第3四半期（751～775年）、最も新しいものが鏤状蓮弁6葉軒丸瓦で9世紀中頃（850年前後）のものと考えられます。

単弁8葉蓮華文軒丸瓦、鏤状蓮弁6葉軒丸瓦は、当時の武蔵国府（現在の東京都府中市）に近接して建立された武蔵国分寺〔僧寺・尼寺〕（現在の東京都国分寺市）及び関連施設の建物の屋根瓦と共通するもので、武蔵国分寺、ひいては国との強い関わりを証明するものと考えられます。

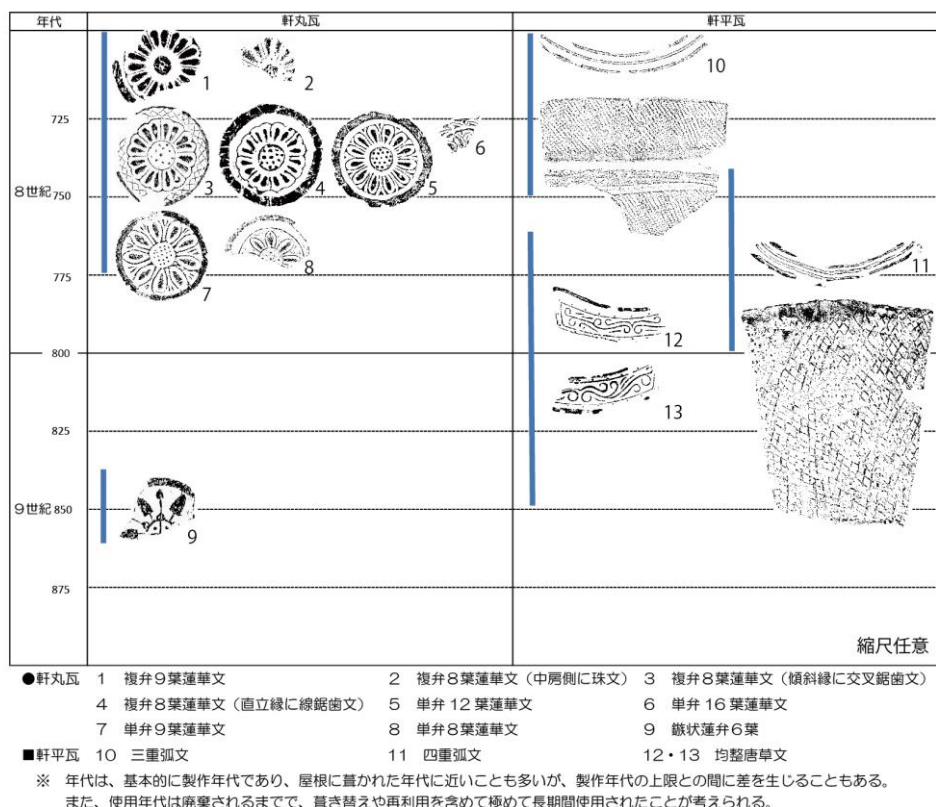
三重弧文軒平瓦は、8世紀前半（701～750年）のものと考えられ、軒平瓦または平瓦と考えられる瓦も、これと同時期と推定されます。

一方、瓦塔の屋蓋部は、灰色に硬く焼かれた須恵質のもので、製作技法等の特徴から8世紀後半～9世紀初頭（751～800年頃）のものと考えられます。

4 西別府廃寺出土の軒丸瓦・軒平瓦、瓦塔について

西別府廃寺では、3度（平成2・4・28年度）の発掘調査によって、軒丸瓦8種類、軒平瓦4種類が出土しています。その多くは、寺院内に造られたゴミ捨て場と考えられる瓦溜り状遺構や溝状の大規模な土坑、建物基壇跡などから出土しました。これらには、この度の返還資料には見られないものがあり、軒丸瓦では複弁9葉蓮華文軒丸瓦、傾斜する縁に交叉鋸歯文を配す複弁8葉蓮華文軒丸瓦、周囲に唐草文を配す単弁16葉蓮華文軒丸瓦が、軒平瓦では二重弧文軒平瓦、四重弧文軒平瓦、均整唐草文軒平瓦があります。軒丸瓦・軒平瓦の時期は、8世紀第1四半期～9世紀前半です。これらの時期的な変遷は、変遷図（第2図）を参照。

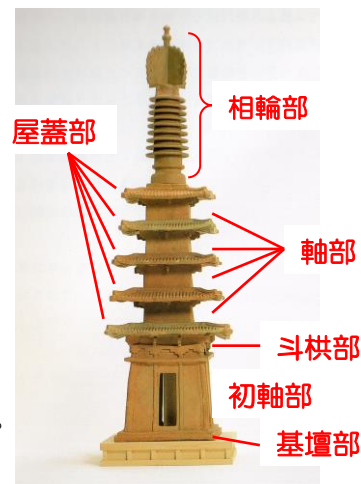
一方、瓦塔には、この度の返還資料に見られる須恵質の製品のほか、赤く焼かれた土師質の製品があり、須恵質の製品では瓦堂と呼ばれるお堂（金堂）を模したものがあります。また、瓦塔には、屋蓋部以外に、相輪部、軸部（初軸部）、斗栱部、基壇部と呼ばれる部位も見られます（用語解説参照）。瓦塔・瓦堂の時期は、8世紀後半～9世紀初頭に加えて、9世紀中頃までのものが出土しています。



第2図 西別府廃寺 軒丸瓦・軒平瓦変遷図

【用語解説】

- 郡家 … 古代の地方行政単位である「郡」を治める役所のこと。郡衙ともいう。
- 郡司 … 郡家の役人で、各々の地域を治めていた地方有力氏族が登用され、終身官であった。
- 幡羅官衙遺跡 … 主に深谷市に広がる飛鳥時代～平安時代の幡羅郡家跡の遺跡で、租税として徴収した稲や穀物を収蔵する正倉、給食施設である厨家、郡司らの宿泊施設である館、行政の実務を行う曹司などが確認されている。
- 西別府祭祀遺跡 … 飛鳥時代～平安時代の西別府の湯殿神社裏の堀を中心とする湧水があった場所で行われた祭祀場跡で、石製模造品、土器（墨書土器など）、土錘を用いてまつり（祭祀）を行った。
- 弥勒寺官衙遺跡群 … 幡羅官衙遺跡群と同様に、郡家・祭祀・寺院の3要素が揃う、長良川河畔に造られた美濃国武義郡家関連遺跡群。国指定史跡。
- 伽藍 … 仏舎利を安置する塔、本尊仏を祀る金堂、法会などの儀式を行う講堂などの寺院の建物。
- 基壇 … 寺院建物の堅くつき固めて築いた基礎地業。多数の瓦が葺かれた屋根を支える柱を据えた礎石は、この基壇に設置された。
- 土坑 … ゴミの廃棄や埋葬などのため、地面を掘って造った大きな穴。
- 軒丸瓦 … 軒先を飾った蓮華文などの文様のついた丸瓦。
- 軒平瓦 … 軒先を飾った重弧文や唐草文などの文様のついた平瓦。
- 瓦塔 … ミニチュアの塔。寺院の堂内などに安置し信仰の対象とした。
- 瓦堂 … ミニチュア金堂。瓦塔と同様の用途である。



第3図 瓦塔例(部位名称)

令和5年5月10日発行

編集・発行：熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）

江南文化財センターホール展示
「里帰り！ 西別府廃寺採取「古瓦」展」 展示品リスト

	1	単弁12葉蓮華文軒丸瓦	8世紀前半 (8世紀第2四半期)	
【参考】	2	単弁12葉蓮華文軒丸瓦	8世紀前半 (8世紀第2四半期)	第2次調査 第1号瓦溜り状遺構
	3	単弁9葉蓮華文軒丸瓦	8世紀後半 (8世紀第3四半期)	
【参考】	4	単弁9葉蓮華文軒丸瓦	8世紀後半 (8世紀第3四半期)	第2次調査 遺構外
	5	単弁8葉蓮華文軒丸瓦	8世紀後半 (8世紀第3四半期)	
【参考】	6	単弁8葉蓮華文軒丸瓦	8世紀後半 (8世紀第3四半期)	市指定考古資料「古瓦」 (安楽寺所蔵)
	7	鏃状連弁6葉軒丸瓦	9世紀中頃	【唯一資料】 初披露！
	8	三重弧文軒平瓦	8世紀前半	
【参考】	9	三重弧文軒平瓦	8世紀前半	第2次調査 第1号瓦溜り状遺構
	10	軒平瓦または平瓦	8世紀前半？	
	11	瓦塔（屋蓋部）	8世紀後半 ～9世紀初頭	
【参考】	12	瓦堂（屋蓋部）	8世紀後半 ～9世紀初頭	第1次調査 遺構外